

科目名	遊び学			担当教員	松本 信吾	
単位	2単位	講義区分	演習		ナンバリング	
期待される学修成果						
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験	教諭（講師含む）					
実務経験を生かした授業内容	保育現場の経験を活かし、子ども理解の実際や環境構成・援助の在り方などについて具体的に示していく。					
到達目標及びテーマ	本講義は、「遊び」を通して、生きること、学ぶことの意味を体得することを目的とする。具体的には、自分の中の「遊び心」を取り戻し、子どもの遊びを捉える感覚を養うこと。遊びの実体験を通して、遊びによる経験について考察すること。学習した「遊びの意味」を多様な形で表現すること。遊びによる教育という「保育」という営みの独自性と小学校に向けての学びの連続性について理解することを目標とする。					
授業の概要	本授業は、遊びに関する各分野の専門家をゲストティーチャーとして迎え、座学だけではなく実際に遊びを体験するフィールドワークや語り合いを通して遊びの意味や意義を体得する。具体的には、各分野の遊びを体験しつつ、その特性を理解する。またまとめとして、体験し学んできた「遊び」を自分なりの形でプレゼンテーションすることで、遊びの意味や意義についての理解を深める。そのことで「生きる」「学ぶ」ことの原点が幼児期にあり、その構造は小学校以降も全く同様に、探究は連続していることを学修する。 【デジタル技術利用 該当番号：①、③、④、⑥】					

授業計画	
第1回	オリエンテーション 「遊び」の概要について
第2回	遊びの「おもしろさ」の世界 ゲストティーチャー：中井佐栄子（京都府亀岡市乳幼児教育センター長）
第3回	絵本の世界① 絵本の世界を知る ゲストティーチャー：サトシン（絵本作家）
第4回	絵本の世界② 絵本の世界を体験する ゲストティーチャー：サトシン（絵本作家）
第5回	美術造形の世界 ゲストティーチャー：和泉誠（アーティスト）
第6回	自然遊びの世界 ゲストティーチャー：才賀美奈（自然環境保育インストラクター）
第7回	伝統玩具の世界 ゲストティーチャー：笹尾武（保育士兼けん玉パフォーマー）
第8回	私たちを取り巻く世界① 私たちの世界はどうなっているか ゲストティーチャー：小西貴士（森の案内人・写真家）
第9回	私たちを取り巻く世界② 明日の子どもたちのための環境とは ゲストティーチャー：小西貴士（森の案内人・写真家）
第10回	音楽遊びの世界 ゲストティーチャー：荒巻シャケ（保育シンガーソングライター）
第11回	戸外での遊びの世界① まずは思い切り遊んでみよう ゲストティーチャー：萩原ナバ裕作（インタプリター）
第12回	戸外での遊びの世界② 遊びを生み出してみよう ゲストティーチャー：萩原ナバ裕作（インタプリター）
第13回	制作遊びの世界 ゲストティーチャー：浦中こういち（絵本作家・あそび作家）
第14回	学修の整理と発表に向けての準備
第15回	「遊び」学修の発表 「遊び学」のまとめ

事前学修		次回学修するキーワードを授業の最後に示す。それをもとに、自分なりの考えを描いたり、関連する概念を調べたりする。
事後学修		学修した内容を自身の経験や学びと関連づけて文字化する。
フィードバックの方法	・授業後の振り返りシートへのコメントの記入など、授業者への学習支援を丁寧に行う。 ・振り返りシートなどから見えてきた疑問や質問などについては、個別的是もちろん、必要であれば全体でも振り返るようにする。	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
レポート		60%	各回の内容における学びを自分なりの論を展開することが出来るか評価を行う。
上記以外の試験・平常点評価		40%	・各回のフィールドワーク及び最終成果発表に対して主体的、対話的に取り組んでいるか評価を行う。
定期試験		0%	実施しない
補足事項	・ゲストティーチャーの活動内容により、2コマ続きで行うこともあるので、木曜3，4限はどちらもこの授業のために空けておくことが履修の条件です。 ・保育初等教育専修以外の履修希望者は10名まで受付けます。人数が越えた場合は抽選となります。 ・各回の終了後にミニレポートを課します。		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	なし
参考資料	各ゲストティーチャーが必要に応じて資料を配付する			